

抗菌薬適正使用に関する教育・施設における抗菌薬使用ガイドライン作成・普及に関する研究

研究分担者 鈴木圭 三重大学医学部附属病院 血液内科 助教

同 感染症内科 副科長

研究要旨

初年度において開発した教育プログラム（MiMID: Mie Master Course of Infectious Diseases）を元にして、次年度には標準的な感染症診療・抗菌薬適正使用の基本的事項をまとめた手引きをハンドアウトとして取りまとめた。最終年度では、初年度、次年度に策定したこれらのツールを用いて抗菌薬適正使用に関する教育を行うとともに、これまでの成果について国際学会で発表した。また、手引きはウェブサイト上で無償で提供できる環境を整備した。このツールは、地域における感染症診療・抗菌薬適正使用への認識が共有化される一助になったと考えている。

A. 研究目的

薬剤耐性（AMR）対策アクションプランにおいて、地域の病院と多くの医療機関が連携した感染症対策の総合的なネットワークの構築が求められているが、AMR 対策アクションプランで示された 6 分野の 1 つである「普及活動・教育」や「抗微生物薬の適正使用」への対応は、感染症診療を担う医療者の感染症の基礎的知識の習熟度やニーズにも差が存在していることもあり、十分とはいえない現状がある。この状況を踏まえ、本分担研究では抗菌薬適正使用の理解と、感染症診療の基本を学ぶための教育プログラムを開発し、感染症対策・治療の均てん化に寄与するとともに、実際的な手引きを開発・作成することを本研究の目的とした。

B. 研究方法

本研究の実施にあたっては、研究代表者、分担研究者のほか、本研究で作成される手引きを実際に活用する医療関係者、およびこれを校閲できるものからなる研究班によって検討を行った。

将来的に抗菌薬適正使用・感染症診療を支えていく屋台骨となっていく初期研修医を対象とした教育プログラム（Mie Master Courses of

Infectious Diseases: MiMID）を立ち上げ、研修会を開催することとした。また、このエッセンスを盛り込んだ手引きを冊子化し、地域の医療従事者まで対象を拡大することとした。

（倫理面への配慮）

研究実施にあたり、個人情報の使用や介入等はなく、特段倫理面への配慮は必要としない。

C. 研究結果

初年度は初期研修医を対象とした教育プログラム（MiMID: Mie Master Courses of Infectious Diseases）を立ち上げ、研修会を開催した。また、研修参加者にはアンケートへの回答を求め、実用性についての意見を得た。さらに、班員により研修会用に作成された教育ツールに対する検討ならびに相互査読を行い、MiMID の内容をもとに標準的な感染症診療・抗菌薬適正使用の基本的事項をまとめた手引きの暫定案を作成した。

次年度は上記暫定案をまとめた手引き（MiMID ハンドアウト 2018）を作成・冊子化し、研修会において無償で配布した（資料 4）。また、研修会に参加せずとも資料を閲覧、使用できるように、この

内容をウェブサイトで公開し、指導医が各自の施設で教育に用いることができるように、無償でダウンロードできる環境を整備し運用を開始した。

(<http://www.mie-icnet.org/lecturedetail/900/>)

最終年度では、初年度、次年度の取り組みを成熟化させて継続するとともに、これまでの取り組みとその成果について国際学会で発表した。

D. 考察

本研究のメインテーマである、地域における感染症対策の総合的なネットワークの構築のためには、この教育のネットワークをさらに拡大していく必要がある。感染症専門医や、専門施設が増えるわけではない。従って、感染症診療のボトムアップのためには、既存の施設における教育面・臨床面での感染症診療支援がどうしても必要となる。このために、本研究で策定した教育プログラムを、病院勤務医や、第一線で診療を支えている開業医師などにも生涯教育として提供してきた。この後、本プログラムを修了した医療者によって、本プログラムがさらに地域で拡大・習熟されていくことを期待している。

E. 結論

AMR 対策アクションプラン策定を受け、地域における感染症対策の総合的なネットワークの構築の一環として、抗菌薬適正使用の理解と、感染症診療の基本を学ぶための教育プログラム(MiMID)を開発し、手引き (MiMID ハンドアウト 2018) を作成し、公開・冊子化を行うとともに、この取り組み

を国際学会で発表した。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) Suzuki K, Ikejiri K, Tanizaki R, Arai A, Nakamura A, Imai H, Tanabe M. Regional education program for improvement the outcome by virtue of the proper use of antimicrobials. The 17th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (Hong Kong), (2018. 9)

2) Suzuki K, Ikejiri K, Tanizaki R, Tanabe M. Continuous regional education program for improvement the outcome by virtue of the proper use of antimicrobials. 31th International Congress of Antimicrobial Chemotherapy, 4th Gulf Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases (Dubai), (2019. 11)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし